

にぎわい

日本海にぎわい・交流ネットワーク通信

会員だより

★長崎ランタンフェスティバル【長崎県】

冬の長崎を代表する祭り「長崎ランタンフェスティバル」は、中国の旧正月を「春節祭(しゅんせつさい)」として祝うもので、中国や台湾、香港でも「灯籠祭」として盛大に行われております。長崎でも在留する華僑の人々により、新地中華街を中心に「春節祭」が行われていましたが、平成6年から長崎市が参画して規模を拡大し、「長崎ランタンフェスティバル」となりました。長崎の冬を彩る一大風物詩として、多くの市民や観光客に楽しんでいただいております。

今回の「長崎ランタンフェスティバル」は、平成13年1月24日(旧正月)から2月7日まで15日間にわたり開催されました。新地中華街はもとより、長崎市内は、12,000個にも及ぶランタンが長崎の街を光の華で色鮮やかに染め上げ、長崎の中の中国という雰囲気を楽しんでいただけたようです。メイン会場となる新地中華街脇の湊公園では、景德鎮などの陶磁器を組み合わせで作った「龍と鳳凰」のほかにも、本場中国から買い付けた大型オブジェを始め、今回は、2001年の干支である巳をモチーフにした「玄武」など新しいオブジェも所狭しと設置され、幻想的な中国独特の灯で街はまさに中国一色へと変貌していました。期間中は、安全祈願やカウントダウンによる点灯式「春節礼祭」で開幕し、「龍踊(じゃおどり)」や「中国獅子舞」「中国雑技」、また「皇帝パレード」「媽祖(まそ)行列」と中国色あふれる多彩なイベントや、「手作りランタンコンテスト」や「ダンスコンテスト」など、観光客はもとより市民も楽しめるイベントなどで、みなさん艶やかな夜を楽しんでいただいたようです。



新地中華街



玄武



媽祖(まそ)行列

★**厳原町に優秀観光地づくり賞**

古くから朝鮮半島との交流の歴史がありそれを観光にも生かしている対馬・厳原町が第8回優秀観光地づくり賞(主催／社団法人日本観光協会、旅フェア実行委員会、後援／国土交通省、総務省、朝日新聞社)を受賞いたしました。この賞は、観光客はもとより地元の人にも喜ばれる観光地を目指して、積極的かつ効果的に観光振興活動を続け、他の地域の参考になるような観光地づくりの成果を生み出している団体を表彰し、全国に広報することによって、優秀な観光地づくりを推進し、もってわが国の観光振興を図ることを目的として平成6年に創設された賞です。



厳原港と厳原の町並み

★今回はその対馬“**厳原町**”の観光地づくりについて紹介します。

対馬は、韓国と国境線を共有する国境の島です。古くから大陸との交流において、重要な役割を果たしてきました。その対馬の最南端に位置する町が「厳原町」です。古くは藩政時代から宗家十万石の城下町として、島の政治・経済・文化の中心地として栄え、いまでも歴史的遺構も多く、武家屋敷の石垣など、今も当時のなごりを色濃く残しています。なかでも本三大墓地の一つでもある万松院には、徳川家歴代将軍の位牌や朝鮮通信使資料等の貴重な資料が保存されています。

厳原町は、このような豊かな歴史と美しい自然を観光のメインとして、町全体を「国境の城下町」へと変え、日本国内の観光客もさることながら韓国からの観光客を受け入れるべく



万松院



対馬藩主 宗家居城「金石城櫓門」

環境整備に町全体として取り組みました。まず、城下町づくりの核として、宗家の居城でもあった金石城の大手門を「金石城櫓門(やぐらもん)」として復元し、その後、厳原本川に架かる橋や河川護岸などの修景工事を行いました。これらの取り組みで全体として調和のとれた「平成の城下町」が完成し、観光客の受け入れ体制を整えることができました。



厳原本川の河川護岸

また、一方では、昭和39年夏から開催されてきた「厳原みなと祭り」に、昭和55年より朝鮮通信使行列と同時に、韓国からの舞踊団も加わり、さらに昭和63年からは、名前を『厳原港まつり「対馬アリラン祭」』とし、対馬を代表する最大の祭りに成長しました。最近では韓国観光客を中心に、国内外から多数の観光客が、祭りに参加するに至り、今日の国際的なイベントに発展しています。



長屋門前で踊る韓国民族舞踊団

さらには、平成11年7月より韓国・釜山港から厳原港間に定期国際航路が就航し国際交流の拠点として確立しています。厳原町では、国際交流係に韓国人の国際交流員を配置し、国際交流の場における通訳はもちろん、韓国語講座の講師として、また、韓国大学生などのホームステイ受入事業など色々な行事に活躍していただいています。その他の事業としても、青少年の親善交流事業や、日韓合同絵画展・写真展などの文化交流事業、各種団体の相互親善訪問など多くの交流事業をすすめています。まさに「国際交流の町」として、日韓の交流の懸け橋として町民一体となって取り組んでいます。全国のみなさん、ぜひ一度「厳原町」においでください。きっとすばらしい国際交流が体験できますよ！おまちしています。



国際定期航路のシーフラワー号

編集後記

時が経つのは早いもので、先月、国土交通省がスタートし一ヶ月が過ぎました。わが九州地方整備局では再編後、本ネットワークは、港湾計画課が担当することとなり、引き続き日本海沿岸の交流と連帯を深めるために数多くの地域や港の情報を発信していきたいと考えております。会員の方々、今後ともよろしく願いたします。

今回は、長崎県と厳原町についてとりあげてみました。どちらも大陸からの玄関口として以前から中国や韓国との交流が盛んであり、現在はその名残として様々なイベントが行われています。本誌を通じて各地域独自の歴史やイベント活動に興味を持っていただければ幸いです。また、本誌を発行するにあたり会員の方々に多大な御協力をいただき、誠にありがとうございました。

最後に、さらに多くの会員の方々の日頃の御活躍を「にぎわい」誌面に載せることは、さらなる日本海にぎわい交流海道ネットワークの推進へとつながると思いますので積極的に本誌を活用していただければ幸いです。

日本海にぎわい・交流海道推進協議会事務局
九州地方整備局 港湾空港部 港湾計画課

TEL 0832-24-4126

FAX 0832-24-4137